

【2010年1月11日循環経済新聞に掲載された記事紹介】

独自開発、プラント使用

オイルプリントナトリ

の年間製造量20万2000リットルで、現在も増え続けている。

同社は、2004年に宮城県環境産業新技術開発の認定事業として、産・学・官の協力体制のもと、廃食用油の回収、製造、販売まで一貫したバイオディーゼル燃料(BDF)の取り組みを行っている。09年3月に京都暫定規格の項目全ての基準をクリアしている。2008年度の実績としては、年間回収量36万7000リットル、年間製造量22万1000リットル、販売および同社

同社の開発したプラントの精製能力は、7年々増加している。500リットル/日で、特長として、遠心分離機が導入されており、1日最小で200リットルから最大7500リットルまで需力体制のもと、廃食用油に沿った生産計画を立てられる。

また、同社はBDFの品質向上に努め、2009年3月に京都暫定規格の項目全ての基準をクリアしている。

同社では、環境規制対応車両(新長期排ガス規制車両)でも問題なく、営業車両や大型タンクローリー等の20台の燃料にBDFを使用している。

町村、行政、NPO等と共同で回収を行っている。東京都市内へ産業廃棄物収集運搬を行う際には、東京都適合車両標章のステッカーを装着して収集運搬を行っている。

販売先は、環境活動に積極的な企業や、公共性の高い路線バス、工場のホークリフト等の軽油代替燃料として利用している。

同社の武田洋一社長は、「地球温暖化対策としてのCO₂削減活動を天いにアピールし、普及活動に取り組み、環境ビジネスの一翼を担う企業として地域貢献したい」と語っている。



独自開発、プラント使用

オイルプリントナトリ

の年間製造量20万2000リットルで、現在も増え続けている。

同社は、2004年に宮城県環境産業新技術開発の認定事業として、産・学・官の協力体制のもと、廃食用油の回収、製造、販売まで一貫したバイオディーゼル燃料(BDF)の取り組みを行っている。



【宮城県と宮城交通様が協力して運行するバイオディーゼル燃料バスの紹介】

19年度から継続してBDF 100%を燃料とした宮城交通株式会社様の路線バスが、21年度も継続して運行されました。

〔過去の運行実績〕

19年8月24日出発式～11月30日	バス1両
20年7月22日～12月31日	バス4両
21年6月16日～12月31日	バス4両



写真は宮城県資源循環推進課HPより引用

地域住民の皆様との交流



平成21年11月23日(月)事業の変更がありませんでしたので、今年度も飯塚町内会役員の皆様方と意見交換と工場見学会を行ないました。

